

# わが社の人材開発

## 研修センターを中心に、 企業理念を体現する 人材の育成を目指す 株式会社小田急ビルサービス

本社所在地：東京都渋谷区

事業内容：ビル総合管理 / 建設工事 / プロパティ  
マネジメント / 地域冷暖房運転管理 / 食品リサイ  
クル事業 / 店舗営業・各種サービス / 水処理事業  
従業員：769名

### 研修機関を設け、 人材を育成

小田急ビルサービスは、小田急グループのビルメンテナンス会社として1966年に設立され、実績を重ねてきました。現在はビル総合管理を中心に、上記「事業内容」のようなさまざまな業務を展開しています。

小田急ビルサービスは「快適空間」の創造を企業理念としており、これを実現できる人材像として「知識と技術力を伸ばせる人」「お客様の視点で発想できる人」「だれからも信頼できる人」の3項目を挙げています。

同社には研修機関として小田急ビルサービス研修センターがあり、技術力・能力開発の面から先述の3項目に適う人材の育成をサポートしています。またOBS職業訓練校があり、建築物設備管理科と建築物清掃管理科の2学科を設けてスキルアップを図り、ビル管理業務のサービス向上に努めています。

### 新人たちをきめ細かに フォロー

新入社員は研修センターで12日間、にわたり、会社の概要や業務の内容、ビジネスマナーなどのレクチャーを受け、現場を訪問して仕事の基礎を学びます。新人研修について総務部次長兼教育担当課長でOBS職業訓練校校長を兼務する松井邦彦さんは次のように語っています。

「各部署に配属されると、勤務地が離れていたり仕事の性質から交流が難しくなります。それだけに新人研修は同期の仲間意識を醸成するのに大切な意味を持っています。センターのス

タッフたちも、研修前に顔と名前を覚え、彼らに対してフェイス・トゥ・フェイスの対応を心がけています」

配属後のフォローとして、センタースタッフたちが年々、各部署を訪れ新人たちとマンツーマンで話し合いを持ちます。

「新人たちは、職場にまだ慣れていないこともあってさまざまな悩みを抱えています。親身になって彼らの相談にのることで、早期退職の防止にもつながります。今後はカウンセリング機能も充実させていきたいと考えています」(松井さん)。

研修センターではこのほか、中堅社員や職場リーダーを対象とした階層別研修や資格取得を目指した研修も実施されています。会社で認められた資格を取得した場合には報奨金が授与されるほか、資格手当も支給されます。

各部門でも独自のOJT教育が行われます。各部門ではそれぞれの職務に応じた教育計画とカリキュラムを作成して、所属者たちのいっそのスキルアップを目指し、「快適空間」の創造ができる人材の育成に努めています。

### スキルアップのための 新たな試み

これまで新人研修に際して講師たちがそれぞれ個々の考えに従って教えていたので、内容やレベルの均一化に課題がありました。そこで、新人研修を担当する中堅社員を対象に「W・J」(監督者訓練)仕事の教え方を取り入れた研修を実施し、効果を上げています。

また仕事の合間をぬって研修センターに向き、研修を受けるのは社員たちの負担感にもつながります。そこで、担当者が



各職場に向いて研修を行うなど、社員たちの負担軽減を図る工夫も行われています。総務部に所属し、研修センターの専任教師とOBS職業訓練校副校長を兼務する西川明夫さんは、「例えばAED(自動体外式除細動器)研修では、スタッフたちが機器を持参して各職場で研修を行っています。このようにできる限り社員たちが負担を感じないような研修を工夫することで、いっそのスキルアップが可能になると思います」とその効用を指摘します。

松井さんは、研修の目指すべき方向について次のように話しています。

「今後のビルメンテナンスは日々の業務をこなすことはもちろん、多様化するお客様のニーズを的確に把握し、コストや環境を考慮したサービスを提案することが重要になってきます。私たちはそうしたことができる人材の育成を目指し、研修機能のいっその充実を図りたいと考えています」。